【津和野藩江戸上屋敷絵図】（江戸時代後期）
外桜田にあった上屋敷。屋敷のうち長屋塀の角にある蔵の屋根だけが、石見特産の赤瓦で葺かれており、江戸の黒瓦の町並みで威容を誇っていた。特産品の宣伝と、重い瓦を江戸まで運ぶことのできる津和野藩の財力を示すものである。

祝「萩・石見空港東京線 2往復運航継続決定」

石西の文化を学ぶれんげ草の会

3月講演会のご案内

日時：令和7（2025）年3月15日（土）
10：00～11：30
会場：益田市立図書館　2階講義室

入場無料

【講師紹介）
熱田　貴保　氏
島根県埋蔵文化財調査センター
高速道路調査推進スタッフ

島根県職員として県内の遺跡発掘調査に従事。石見空港建設に伴う発掘調査の担当者の一人。

― 石見の歴史的産業の一翼を担った石見の赤瓦 ―

萩・石見空港敷地内に現地保存されている仁右卫門山瓦窯跡では、19世紀初頭に施釉瓦（赤瓦）を製造し、発掘調査によって出土した鬼瓦には津和野藩亀井家の家紋（四ツ目結）が描かれていた。

その後、東京都港区麻布の亀井家中屋敷の発掘調査で赤瓦が出土、分析の結果、仁右卫門山窯で作られた瓦が遠く江戸藩邸に運ばれていたことが判明した。
今回の発表は、窯の概要と、益田から江戸へ運ばれた石見の赤瓦について、現物を見ながら史料を交え解説する。

石西の文化を学ぶれんげ草の会　事務局
益田市駅前町25-13　（090-3176-5904）